

日本社会福祉学会第68回秋季大会
2020年9月12-13日
WEB開催 E-ポスター発表

LARA救援活動の展開と収集情報の様相

—フレンド派を中心に—

キーワード: ララ救援物資・E.B.ローズ・組織化

西田恵子(立教大学)

※本研究は科研費基盤研究(B)の助成を受けています。

1

要旨

第2次世界大戦後、日本に送られたララ救援物資の意義について社会福祉の領域で明らかにすることが研究全体の目的である。

この度の研究では、LARAをM.J.マキロップ、G.E.バットとともに牽引した三代表の一人であるE.B.ローズが所属したフレンド派に注目する。

同派はクエーカーと呼ばれ、LARA以前に様々な平和活動や奉仕活動を展開していた。ララ救援物資による救援活動は複数の組織で構成したLARAという組織が行ったものである。その展開にあたって、フレンド派はフレンド派内での情報収集を行っていたが、他組織との情報交換・意見交換を通じた情報収集も行っていた。活動の情報化、収集情報の蓄積、情報収集を通じた合意形成、活動プランの検討、情報の発信など、積極的に情報を取り扱っていたこととLARAにおけるリーダーシップの連関性を考察することができる。

2

参考1

ララ(救援)物資

第2次世界大戦後、戦災国である日本にアメリカの民間団体LARAが送った物資のこと

- 時期: 1946年11月～1952年6月
- 物量: 計458船: 食糧・衣服・医薬品・靴・石鹼
・布地・綿など、約15,000トン
- 金額換算: 1,100万ドル
(当時の400億円に相当)
- 配分先: 社会福祉施設・引揚寮・病院など約5,500
※水害など大規模災害時には被災地へ緊急配分

3

参考2

LARA

Licensed Agencies for Relief in Asia
(アジア救援公認団体)

- アメリカの民間団体ACVAFSを母体として1946年4月1日に結成
- アメリカの13または14団体が構成
- 発足当初、E.B.ローズ、M.J.マキロップ、G.E.バットの三代表を選任
- 日本にララ中央委員会を設置
- 厚生省との連携により救援活動を展開

4

研究の背景

(1)戦後75年を経た日本における戦後混乱期の要援護者に対する海外救援活動の認識と理解の課題

問題1)各種文書・資料の廃棄・散逸

問題2)伝承による異聞の拡大

問題3)救援を介した救援者と被救援者との関係形成

(2)ララ物資及びLARAに関わる研究の進展の課題

○1952『ララ記念誌』厚生省

○1999『救援物資は太平洋を越えて 戦後日本とララの活動』多々良紀夫

研究目的

～ララ物資及びLARAの意義について社会福祉の領域で明らかにすること～

(1)ララ物資の配分過程を把握すること

(2)ドイツ、韓国、沖縄との救援物資に関わる事象の比較を通じて日本の特徴を明らかにすること

●(3)危機下の要援護者支援における公私協働、多機関・団体の連携の意義と要件を明らかにすること

●(4)海外救援活動の運営要件を明らかにすること

5

研究の視点及び方法

- ・ 今回の発表は、LARA構成団体のひとつであるとともに、ララ三代表の一人であるE.B.ローズが所属したフレンズ派の救援活動への関わりに注目する。日本の対戦国の一つであったアメリカにおける救援活動の組織化と運営の過程を把握することを通じて、救援活動の展開に資する視座を獲得する。
- ・ フレンズ派によって設置、運営されているアメリカ・フレンズ奉仕団(American Friends Service Committee)(以下、「AFSC」とする。)のアーカイブセンターで閲覧、収集した資料及び同センターのアーキビストへのメールを介した調査をもとに検討する(同資料等の利用については承諾を得る)。その他、本研究でこれまでに収集した各種文献も適宜、活用する。

倫理的配慮

日本社会福祉学会の「研究倫理規程」及び「研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」を遵守している。文献、資料の引用にあたっては出典を明らかにし原典主義をとっている。また、研究の過程で証言を得る際には、協力者の名誉やプライバシー等の人権を侵害することがないように十分な配慮を行うとともに、把握の内容については本人による確認と承諾を行う。

6

年表(1)

参考3

※多々良(1999)をもとに作成

年	月日	LARA関連の事項	社会動向
1945年	8月15日		戦争終結の詔書
	10月17日	ACVAFSドイツ委員会を設置	
	戦後まもなく	ACVAFS東洋諸国委員会を設置	
	12月12日	フレンド奉仕団内で日本救済に向け検討指示	
1946年	2月27日		SCAPIN775
	3月4日	ACVAFSがE.B.ローズに日本委員会の設置に意見を求める	
	3月15日	ACVAFSが日本委員会設置を決定	
		日本委員会メンバーは国務省、陸運省、通産省、財務省と会合	
	3月25日	ACVAFS日本委員会・朝鮮委員会を合同開催	
	4月1日	ACVAFS日本委員会で代表5名を選出	
	4月8日	ACVAFS日本委員会で名称をLARAとなる	
	4月10日	「LARA創立文書」	
	6月1日	SCAPがLARA代表を日本へ送ることを許可	
	6月19.20日	代表マキロップ、ローズが日本へ到着	
	6月21日	二代表は厚生省社会局葛西嘉資局長に面会し救援を申し入れる	

7

参考3

年表(2)

※多々良(1999)をもとに作成

年	月日	LARA関連の事項	社会動向
1946年	7月8日	LARA三代表、厚生省で第1回公式会合を開催	
	8月30日	SCAPIN1169「ララ救援物資受領並配分に関する連合最高司令官総司令部の日本帝国政府に対する覚書」	
	9月9日		(旧)生活保護法制定
	9月20日	SCAPIN1169に対し一般計画書を提出	
	11月3日		日本国憲法公布
	11月7日	ララ第1船がサンフランシスコを出港	
	11月30日	ララ第1船が横浜へ入港	
1947年	1月9日	ララ第2船が横浜へ入港	児童福祉法制定
1949年	10月20日	SCAPIN2054によりSCAPIN1169で課された報告が緩和	身体障害者福祉法制定
1950年	3月23日	LARAと日本政府の間で救援物資の受領と配分について契約	(新)生活保護法制定
1951年	8月28日	海上輸送費は日本政府が負担する旨契約変更	社会福祉事業法、サンフランシスコ講和条約
1952年	6月	ララ最終船(458船)入港で終了	サンフランシスコ講和条約発効

8

研究結果 I

LARA及びララ救援物資の研究マトリックス図(2015西田試案) ～運営を軸として～(1) 国外

	組織基盤					人		物資				財源	情報			連携	問題状況			出来事	時系列変化
	概況	使命	権限	役割	業績	キーパーソン	専門性	収集	輸送	管理	配分		受信	発信	記録		組織内	対外的	対処		
ACVAFS																					
ACVAFS 構成団体																					
LARA																					
LARA 構成団体																					
GHQ																					
戦時救済統 制委員会																					
国防省																					
陸軍省																					
通産省																					
財務省																					
日系移民																					9

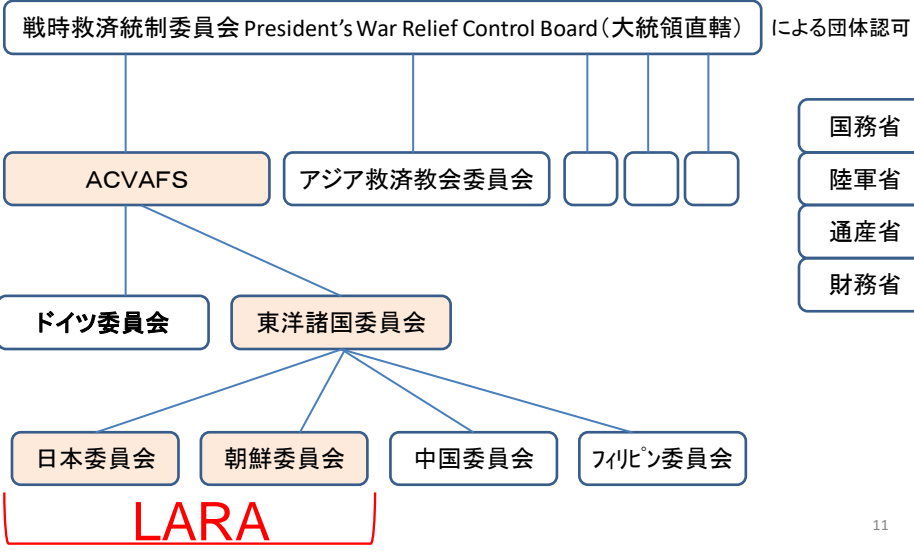
LARA及びララ救援物資の研究マトリックス図(2015西田試案) ～運営を軸として～(2) 国内

	組織基盤					人		物資				財源	情報			連携	問題状況			出来事	時系列変化
	概況	使命	権限	役割	業績	キーパーソン	専門性	収集	輸送	管理	配分		受信	発信	記録		組織内	対外的	対処		
ララ中央 委員会																					
厚生省																					
日本社会 事業協会																					
施設種別 協議会																					
社会福祉 施設等																					
要援護者																					
都道府県 民生部																					
市町村福 祉課																					
民生委員																					
地域住民																					
警察																					
企業																					10

※多々良(1999)をもとに西田作成

参考4

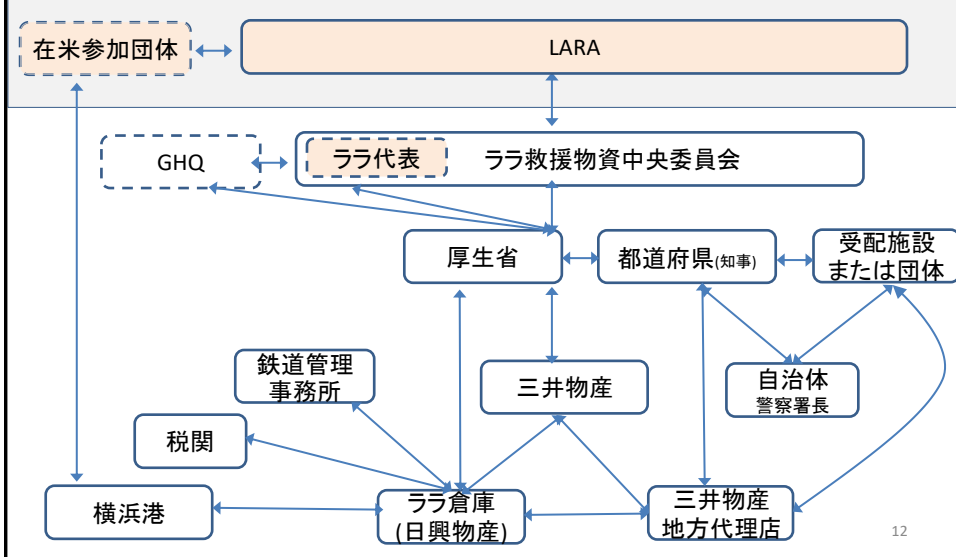
アメリカにおける海外救援の機構



11

日本におけるララ物資配分に関わる主体

※「ララ記念誌」93-94頁をふまえた上で諸資料から西田修正。(2019学会発表)



12

LARA構成団体と三代表の所属団体

『ウラ』 L ¹⁾ (13団体) ¹⁾	『戦時』 R ²⁾ (13または14団体) ²⁾
<ul style="list-style-type: none"> ●教会世界奉仕団 Church World Service Committee¹⁾ ●米国フレンド奉仕団 American Friend Service Committee¹⁾ ●カトリック戦時救済奉仕団 Catholic War Relief Service¹⁾ 	<ul style="list-style-type: none"> ●教会世界奉仕団 Church World Service¹⁾ ●米国フレンド奉仕団 American Friend Service Committee¹⁾ ●カトリック戦時救済奉仕団 Catholic War Relief Service¹⁾☆
<ul style="list-style-type: none"> ・救世軍 Salvation Army¹⁾ ・男子基督教青年会 Young Men Christian Association¹⁾ ・女子基督教青年会 Young Women Christian Association¹⁾ ・アメリカ労働総同盟 American Federation of Labor¹⁾ ・産業別組合会議 Congregation of Industrial Organization¹⁾ ・兄弟奉仕員会 Brethren Service Committee¹⁾ ・ガール・スカウト Girl Scouts¹⁾ ・ルーテル教会世界救済団 Lutheran World Relief¹⁾ ・ユニテリアン奉仕委員会 Unitarian Service Committee¹⁾ ・クリスチャン・サイエンス奉仕委員会 Christian Science Service Committee¹⁾ 	<ul style="list-style-type: none"> ・救世軍 Salvation Army¹⁾ ・YMCA Young Men's Christian Association¹⁾ ・YWCA Young Women's Christian Association¹⁾ ・アメリカ労働総同盟 American Federation of Labor¹⁾☆ ・産業別組合会議 Congregation of Industrial Organization¹⁾☆ ・兄弟奉仕員会 Brethren Service Committee¹⁾ ・ガール・スカウト Girl Scouts¹⁾ ・ルーテル教会世界救済団 Lutheran World Relief¹⁾ ・(ユニテリアン奉仕委員会)¹⁾ ・クリスチャン・サイエンス奉仕委員会 Committee on Christian Science Wartime Activities of the Mother Church¹⁾ ・メノナイト中央委員会²⁾ Mennonite Central Committee¹⁾

※日系移民(アメリカ・カナダ・ブラジル・アルゼンチン・メキシコ・チリ・ペルー)の組織¹⁾

戦前、戦中から日本で活動していた団体
↓
救援対象国(地域)に関わる知識、形成された関係

- 米国フレンド奉仕団:E.B.ローズ
- カトリック戦時救済奉仕団:M.J.マキロップ
- 教会世界奉仕団:G.E.バット

キーパーソンの存在

※カナダの宗教団体¹⁾
初めに選出されたのはローズとマキロップで、バットは追って認められた経過がある。マキロップは後にフェレルセッカーへ交代する。¹⁾

研究結果 II

AFSCと救援活動 活動の蓄積と継承及び展開

[AFSCの創設]

17世紀にイギリスのジョージ・フォックスによって創始されたキリスト教フレンド派が、1917年にアメリカ・フィラデルフィアで戦争犠牲者の救援、人道援助、平和活動のために組織した団体。良心的兵役拒否による兵役を代替する活動という側面があった。

[海外救援の実績]

- 第一次世界大戦によるヨーロッパの戦争被害者への救援活動
- AFSC初代会長にルーファス・ジョーンズ
- ヴァインセント・D.ニコルソンのヤングフレンズボード
- ハヴァフォード大学での活動訓練/大工・石積み・道路建設・機械修理・農業
- 救援物資による活動
- 最初の活動はフランス、その後、オーストリア、ドイツ、フィンランド、オランダ、スイス、イタリア、スペイン、ポルトガル、北アフリカ、中国、インドでも活動を行った。

[日本における活動]

- 1887年、婦人伝道会が女子教育のため普連土学園を創設
- 1917年、幼稚園を水戸に設置
- 1932年、浮浪老人宿泊所を水戸に設置(現在の社会福祉法人老人ホームに至る)

[現在の活動]

- 国際平和構築のための活動
- インクルーシブコミュニティの活動
- 移民の権利を守る活動
- 大量投獄を終わらせる活動
- 経済的正義への活動
- パレスチナとイスラエルの正義への活動

研究結果Ⅲ

エスター・B・ローズ (1896-1979) の救援活動への関り

[年譜]

- 1896年 フィラデルフィアでクエーカーの家庭に生まれる。
 1902年 フレンズスクール入学。
 1916年 家政学科を修了後、YWCAのソーシャル・セツルメント及びソーシャルワーカーの教室を担当。
 1917年 フィラデルフィア・フレンズの日本への宣教師に応募し派遣される。普連土女学校教師に就くとともに伝道活動に携わる。
 1918年 一時帰国。ペンシルベニア大学に籍を置く。
 1919年 アーラム・カレッジで理学士を取得。
 1921年 再び来日。普連土女学校と日本基督友会で活動
 1923年 [関東大震災の救援活動](#)
 1926年 一時帰国。コロンビア大学で宗教教育の修士を取得。
 1927年 再来日。
 1940年 半年の予定で帰国するが太平洋戦争によりアメリカに留まる。
 1945年まで [パサデナの邦人抑留キャンプで奉仕活動](#)。
 1946年 [ララ三代表の一人として再来日](#)
[物資の配分、施設訪問、アメリカへの報告等に従事\(1952年まで\)](#)。
 1947年 普連土学園教師及び理事に就任。社会事業施設興望館の理事に就任(1950-1957理事長)。
 1949年 普連土学園長に就任
 1950年 E.ヴァイニングの後任として皇太子裕仁の英語教師に就任。
 1955年 愛友老人ホームの理事長に就任(1958年まで)

ネットワーク形成と救援活動の組織化
 以後、CACを発足し
 1963年まで支援活動

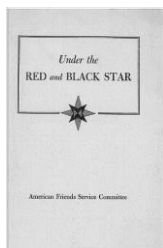
15
 出典：『クエーカーの足跡』から抜粋PP.14-20

研究結果Ⅳ

救援活動に関わる概況の整理と評価

発信と共有

【1946年の例】



JAPAN

In late May, 1946 the Supreme Commander of the Allied Powers (SCAP) approved the monthly shipment of 200 tons of food and clothing to Japan and 500 tons to Korea by the American Council of Voluntary Agencies. Two commissioners, one of whom is a representative of the AFSC, have gone to Japan to arrange for the reception of supplies and to open up channels of distribution. By the terms of her new constitution, Japan officially renounces recourse to war forever. It is important that this new approach to life should not be starved at birth by material famine and spiritual indifference.

出典：AFSC所蔵資料 P.7

JAPAN

With destruction in many of the great cities of Japan reaching as high as 80%, some 21,000,000 civilians are estimated to have lost their homes. Living costs have risen 350%, and in many areas the daily ration is only about 1200 calories.



For the work of relief in Japan, the American Friends Service Committee is associated twelve other American groups in "Licensed Agencies for Relief in Asia", an organization similar to the council set up for bringing assistance to the people of Germany. As in the plan for Germany, the individual committees participating in this organization are restricted when it comes to initiating personalized services and determining methods of distribution.

A representative of the Service Committee to LARA reached Tokyo June 22, 1946, and pending the arrival of Committee shipments of food and clothing from United States, found it possible to purchase some urgently needed commodities from military surplus stocks already in Japan. In November the Committee was able to start shipping supplies from the United States.

出典：AFSC所蔵資料 P.14

16

ANNUAL REPORT ララ救援活動関連記述の抜粋

[1947年 pp.14-15] The individual ration of staple food in Japan is under 1,100 calories per day, a near-starvation diet. Millions of Japanese people are scantily clothed and still homeless. The tuberculosis is high. Associated with 10 other American agencies in LARA (Licensed Agencies for Relief in Asia), an organization similar to CRALOG for Germany, the Service Committee has worked in Japan since June, 1946. As of the end of August, 1947, the entire LARA program had handled 5,052,321 pounds of food, clothing, and other supplies, of which the Service Committee had contributed 1,423,480 pounds. Two Committee representatives have served throughout the year in the LARA organization, one as its chairman and one in Japan, where she is one of three LARA representatives. Approximately 90% of the funds contributed specifically for AFSC work in Japan have been donated by Japanese Americans.

[1948年 p.14, p.15] Among the project in which children have participated this year is the "garden seed program", through which children in this country have sent 13,750 seed packets to children in Poland, Hungary, and Japan. Cash has been contributed by groups of children for food and clothing, and gifts-in-kind have ranged from buttons and soap to shoes and new clothes.

In addition, Quaker food supplies were sent for some months to the victims of a serious flood which occurred early in January in Hungary. In Japan, food distributed through LARA (Licensed Agencies for Relief in Asia) helps to feed some of the neediest among the nearly 80 million victims of war, earthquake and typhoon.

[1949年 p.4, p5] In Japan, a still serious shortage of food kept LARA (Licensed Agencies for Relief in Asia), of which the AFSC is a member agency, continuing the shipment of milk, fats, and proteins to country.

Clothing and materials for producing clothing are still out of reach of vast numbers of people. To clothe those in greatest need continued an important part of the relief program in Germany, Austria and Japan during 1949.

Although textile contribution were smaller than in 1948, over 400,000 yards of textiles and 160,000 yards of muslin were received during the past fiscal year. These were shipped to Germany, Austria, and Japan in quantity, and in lesser amounts to France, Poland, and Finland.

[1950年 p.10, p.12] Distribution of these limited supplies, made on the basis of greatest need, are carried out by local or international groups. This is done in accordance with AFSC policy to turn its work over, wherever possible, to the people concerned. The steady flow of material (中略) in Japan distribution was through LARA (Licensed Agencies for relief in Asia) of which the AFSC is a member agency.

(写真のキャプション) In Japan, dried milk and eggs from U.S. surplus stocks are distributed by LARA (Licensed Agencies for Relief in Asia), of which the AFSC is a member. Here "Grandfather LARA" receives a bow and a thank-you.

[1951年 p.11] Food Shipments to Japan, Germany, Italy, India, France, and Austria, during 1951, reached more than three million pounds. The last shipment of surplus commodities was made in February when, except for potatoes, government surplus foods were withdrawn from the lists of commodities available on a donation basis to voluntary agencies for overseas shipments. Since then, all foods have had to be purchased, accounting for only 54,997 pounds of the total three million.

[1952年 p.29] The discontinuance of LARA (the Licensed Agencies for relief in Asia) and the inability of the Japanese government, in its present straitened circumstances, to continue to reimburse any agencies for ocean freight charges, has greatly curtailed AFSC relief to Japan. This situation is understandable, and yet the need in Japan goes on. Plans have been disserved by the Committee, of which the AFSC will probably be a member, to receive, handle, and distribute relief supplies for Japan. Before LARA close down, however, the Committee made a special effort to send extra-large shipments during the first three months of 1952. In this way, more than 85 tons of new and good used clothing, shoes, piece goods, woolsens, bedding, soap, candles, and thread went through; also some 200 tons of powdered whole milk, sugar, margarine, and other items. There are about 60 tons of clothing and textiles in the Philadelphia warehouse to be shipped to Japan as soon as money for paying the ocean and inland freight can be obtained. 17

AFSCアーカイブセンター

[設置の経過]

AFSCの理事会は発足当初から組織の記録の重要性を認識していた。1929年に記録をハバフォード大学図書館に寄託した。ウィルバー・トーマスが保存物の選別を担った。記録は増え続けた。理事会は1942年に記録の整理のためにウォルター・ファレスを雇用し、1943年にフルタイム雇用にした。彼が初代のアーキビストである。1950年代にヘスター・グローバーに交代し彼女は18年務めた。彼女の引退後はジャック・サッターズがアーキビストになる。1975年、現在地にAFSCが移転した時、アーカイブセンターも設置された。サッターズは様々なファイルを統合し、アーカイブを構築した。彼はコレクションを拡充し続け、内部ユーザーと外部の学者の両方がアクセスできるようにした。オーラルヒストリープログラム、小規模の展示、ウェブによるアーカイブサイトの開発に努めた。彼は2006年に引退し、新任のアーキビストが雇われた。一時、3人になったが景気後退の影響で現在は1名である。

[利用者] 第1位：研究者、第2位：AFSCスタッフ、ボランティア
[スタッフ以外の利用] 約65%はアメリカ。海外からは日本、ドイツ、フランス、スペイン、イタリア、イギリス。

[利用目的] プログラムの把握、資金調達部門による寄付の立案、研究の企画など



考 察

「活動と情報は循環している」

- ・活動の段階によって収集及び加工される情報の範囲や形式は変化する。
- ・協働する他者との活動目的の共有及び活動方法の調整の媒体となる。

○ANNUAL REPORTの海外救援に関わる記述は年次によって形式及び情報量が異なっていた。変わる法則は把握できなかった。(既存資料から収集する情報の有用性と限界)

○ANNUAL REPORT等、公開文書で、AFSCは他団体とともにLARAを構成する一団体であることを記述していた。(組織の位置と活動の位置づけの明確化の確認)

○救援活動に関わる他組織との情報交換、意見交換、調整等に関わる文書はあるが、ANNUAL REPORTは他団体についての記述はなされなかった。(組織の独立性及び他組織の尊重)

ただし1947年には特別寄付の90%が日系人からであることが記述されている。(日系人との関係形成)

○AFSCのメンバーがLARAの3人の代表者のうちの1人であると記述していた。(AFSCメンバーのLARAにおける位置の明示→AFSCが積極的に日本への救援活動を行う内部要因と外部要因の説明及び理解の促進)

○日本で活動したローズは被災地(現地)の代弁者であり、救援組織の運営方針等の代弁者でもあった。(大規模救援活動時の救援組織のリーダーの二面性)

○AFSCの海外救援活動は第2次世界大戦後の日本のみではなく、第1次世界大戦でのヨーロッパでの実績があるとともに、第2次世界大戦後は並行して展開していた。インド、中国、韓国等も対象としていた。(救援活動の普遍化)

○様々な実践、政策等の後年の研究にアーカイブセンターの貢献は大きい。しかしセンターの設置と運営に実績のある組織も、財政状況によって体制が不安定になることがある。(アーカイブセンターの必要と社会的承認及び運営基盤の確立)

今後の課題

- 日本にいるローズとアメリカにいるビーコック、AFSCと他組織との情報交換、意見交換、運営方針の調整等の各種文書の整理と分析
- 大規模救援活動の組織化と運営に関わる情報の図式化

19

【参考資料】

- ・ AFSC 所蔵文書(2019年撮影)
- ・ 『AMERICAN FRIENDS SERVICE COMMITTEE ANNUAL REPORT 1945』
- ・ 『AMERICAN FRIENDS SERVICE COMMITTEE ANNUAL REPORT 1946』
- ・ 『AMERICAN FRIENDS SERVICE COMMITTEE ANNUAL REPORT 1947』
- ・ 『AMERICAN FRIENDS SERVICE COMMITTEE ANNUAL REPORT 1948』
- ・ 『AMERICAN FRIENDS SERVICE COMMITTEE ANNUAL REPORT 1949』
- ・ 『AMERICAN FRIENDS SERVICE COMMITTEE ANNUAL REPORT 1950』
- ・ 『AMERICAN FRIENDS SERVICE COMMITTEE ANNUAL REPORT 1951』
- ・ 『AMERICAN FRIENDS SERVICE COMMITTEE ANNUAL REPORT 1952』
- ・ 『A Celebration of Quaker Service FAITH RISK CHANGE 75』1992年
- ・ 『Under the RED and BLACK STAR』
- ・ Rachel M. McCleary 『GLOBAL COMPASSION』OXFORD 2009年
- ・ 厚生省『ララ記念誌』1952年
- ・ 多々良紀夫『救援物資は太平洋をこえて 戦後日本とララの活動』保健福祉広報協会 1999年
- ・ エスター・B・ローズ記念出版委員会編『クエーカーの足跡』1980年
- ・ 大津光男『教会と幼稚園 水戸基督友会・少友幼稚園史』2017年
- ・ 大津光男『エスター・B・ローズと普連土』2019年

20